

本場結城紬染め折資料館 ており 手緒里 Silk 丝绸

結城紬の卸問屋が立ち並び通りからすこし歩くと、蔵作りの立派な建物が見えてくる。これが紬の展示館手緒里だ。受付を兼ねた紬製品販売の建物を抜けると、道沿いからも見えた立派な蔵作りの資料館がある。ここは二階建てでやさしい白熱灯の照明の下で結城紬に関する数々の展示品を見ることが出来る。実際に糸を紡いでいる様子を再現した蠟人形などもあり、独特の雰囲気を感じ出して



糸つむぎ体験
「つくし」という道具に真綿を巻き付け、手でつむいでいく。



最後に通される離れでは、広い一面の畳の間に、豪華な結城紬の着物が立て掛けられている。ここでは紬の歴史についてのビデオを見ることができ、繭から糸をより出す作業も体験させてもらえる。結城紬の全てがわかる、何ともポリュームのある資料館だ。ぜひ一度足を運んでみて欲しい。

定休日 火曜日・年末・お盆
営業時間 9時～16時半
電話 0296(33)3111
住所 結城市結城2515
入館料 子供百円 大人二百円

オススメ 指 紬の里 気軽に体験できる染織体験

結城駅から徒歩およそ二十分、結城小学校のさきにある、藍染めと機織り体験ができる施設。

紬の里では、「つくる喜びを多くの人に体験してほしい」という願いから「高機」を改造した葉香りを置いており、初めての方でもコースタ約三十分から織ることができる。

藍染めには、日本で最も一般的に使われ栽培している「たて藍」を使っている。



「紬の里では」、結城の味を楽しめます。また、予算に応じてお弁当も作っている。要問い合わせ
機織り体験 コースター千五百円
藍染め ハンカチ 1枚千円

定休日 年末年始、お盆以外無休
営業時間 10時～17時
電話 0296(32)8002
住所 結城市結城2515
体験は要予約

結城紬とは

結城紬は、わが国最古の歴史を持つ高級絹織物です。その歴史は奈良時代まで遡る。当時、常陸国の特産品として朝廷に上納された布（あしぎぬ）が紬の原型とされ、現在、奈良・正倉院に保管されている。やがて「常陸紬」と呼ばれ、室町時代には結城家から幕府・関東管領へも献上されたことから「結城紬」と名を変えた。

江戸初期、伊奈備前守忠次が改良に努め、「結城縞紬」として広くその名が知られるようになった。結城紬は中世以降、この土地の領主だった結城氏がこの産業の保護育成を努めたことから「結城紬」という現在の名が定着されたといわれている。

結城紬ができるまで

結城紬の主な製造工程には、煮繭からはじまり、製品まで24の工程がある。その中で、国の「重要無形文化財」に指定された工程を紹介する。

糸つむぎ

「つくし」という道具に真綿を巻き付け、手でつむいで、「おぼけ」と呼ばれる桶に糸を入れていく。この技術の修得には、数年の修行が必要。

緋くり

特殊方眼紙に設計されたデザインをもとに、糸に炭づけを行いその箇所を綿糸で口と手を使って硬く縛る。

はた織り

地機という最も原始的な織機で織り上げる。一反織るのに早い人で1ヶ月位、高級品になると1年以上かかるものもある。

